

2019年9月14日

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也 様

日本ジオパーク委員会調査運営部会
部会長 宮原 育子

第5回日本ジオパーク委員会調査運営部会評価結果

2019年9月14日に開催した第5回日本ジオパーク委員会調査運営部会において、ユネスコ世界ジオパーク国内推薦審査及び日本ジオパーク再認定審査、日本ジオパーク新規認定審査について、下記のとおり評価しましたので、ご報告いたします。

記

Mine 秋吉台ジオパーク ユネスコ世界ジオパーク国内推薦見送り
日本ジオパーク再認定

桜島・錦江湾（エリア拡大） 保留

五島列島 見送り

以上

第5回日本ジオパーク委員会調査運営部会 評価結果

ジオパーク名	概要	過去の審査の主な指摘事項(該当あれば)	今回の審査結果		今回の評価結果
			主な評価点	改善を求める点	
Mine 秋吉台	Mine秋吉台ジオパークは美祿市全域がエリアとなっており、約 4.5 億年前～現在までの地形地質遺産から成り立っている。ここには海山周辺の深海底の堆積物、海溝充填堆積物、及び付加後にこれを覆った浅海性～陸成堆積物がまとまって分布し、その後の島弧～大陸縁辺における火成活動によって、石灰岩起源のスカルン鉱床が形成された。石灰岩の大地は侵食によりカルスト地形「秋吉台」を形成し、雨水による石灰岩の溶解と地下水の変動により多様な鍾乳洞が形成され、地域の人々はカルスト地形を活かした暮らしを昔からしてきた。また、約2億年前の植物がもととなってできた無煙炭という良質な石炭を産出し、スカルン鉱床は東大寺の大仏に使われている銅を産出した。	<ul style="list-style-type: none"> ガイドや市民が活用可能な拠点施設の整備 Mine秋吉台ジオパーク推進協議会事務局と観光推進組織との連携強化 秋吉台・秋芳洞の保全に関する広域かつ総合的計画などの策定 案内看板やマップの整備 ガイドシステムの整備(観光協会との協働、大学との連携を含む) 運営体制の継続 石灰岩などの販売商店並びに採掘事業者とのコンセンサスの確立 看板等の外国語表記 	<ul style="list-style-type: none"> 秋吉台にジオパーク推進協議会事務局やガイドが常駐できる活動拠点「カルスター」ができ、そこを中心に、来訪者だけでなく地域の人々との交流が図られるようになった。 地域内の人々や団体がジオパーク活動に様々な場所で参加できるようになった。 学校教育においては、ジオパーク学習につながる「実践事例集」が毎年作成されるなど教育現場との連携が図られた。また、秋吉台での小学生ジオガイドや銅山祭りでの中学生英語ガイドが行われた。さらに、ジオカフェを継続的に開催し、地域住民と地域の課題についての情報提供や意見交換を行っている。 事務局専門員と山口大学研究者との研究協力により、ジオパークとしての地学的な価値を高める努力が継続的に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> Mine秋吉台ジオパークの価値や地域を伝えるジオストーリーについて改善が必要である。 総合博物館建設計画で既存施設との効果的な連携や役割分担を明確にする必要がある。 ジオパーク内の文化遺産目録(無形遺産も含む)の作成が必要である。 ガイド個人の人々の能力を向上させるような体系的なガイドトレーニングコースの構築が望まれる。 <p><世界申請に向けて必要な点> 鍾乳石・外国産鉱物について、ユネスコ世界ジオパークに申請時には、パートナーが販売をしない形にする必要がある。</p>	世界 × 日本 ○
桜島・ 錦江湾	2013年度に日本ジオパークに認定された桜島・錦江湾ジオパークは、日本で最も活動的な桜島火山を中心に置き、海底にある若尊(わかみこ)カルデラを火口からの距離で書いた円をエリアにした主に桜島のジオパークとして活動を始めた。ユネスコ正式プログラム化後の2016年度、世界推薦を隣接する霧島と同時期に申請したが、隣接する火山地域の地球科学的価値を個別に評価することはできないとJGCは推薦を見送った。2017年度に従来のエリアでJGN再認定を受けた後、鹿児島市全域と始良市、垂水市の2市にエリア拡大する体制を整え、シラス台地を作った始良カルデラの形成以前を含めた長い大地の歴史と縄文時代からの人の歴史、桜島以外のフィールドで展開されてきた自然を活かしたツーリズムなどを合わせて資源として活動できるとして拡大新規地域として申請された。	<ul style="list-style-type: none"> 再認定審査ではないので、前回の指摘事項のうち、概ね2年以内としたことだけを挙げる。 ジオパークエリアの可視化 ジオサイトの見直しと再編 ガイド組織について 市街地エリアの視認性とストーリーの深化 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大により、エリアが分かりやすくなった。ガイド組織も発足し、市域を越えた交流も始まっている。市街地エリアのストーリー深化につながる可能性も確認し、エリア拡大で前回の指摘事項への対応が進むことが期待できる。 新しく加わった始良市や垂水市のエリアで、従前からジオパーク的価値を活かした自然保護やツーリズムの活動があった。エリア拡大を機にジオパーク活動に参画し、他地域とも連携した生き活きた活動が既に始まっている。 3市の首長は、それぞれ桜島・錦江湾ジオパークの活動の質を高めることに意欲的であり、現状は兼務の始良市、垂水市の担当職員も、ジオパークの価値を分かった上で自らの地域の活動を語り、ガイドら地域の担い手との距離も近い。 錦江湾奥会議で、3市と霧島市のトップや4部会の担当職員らが、今回、審査で巡った場所の魅力を分かち合っており、この会議が連携の鍵だったとトップや担当職員が口を揃えていた。 3市全域に共通するシラス台地や桜島の降灰が、土砂災害だけでなく、湾内の水産資源との関係があることをジオパークとして価値付けしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下の2項目が、特に早急に対応が必要な課題である。これらの課題に対応後、その実績が報告されるまで、拡大地域をジオパークとして認定するのを保留し、報告後に改めて審議する。 1)現状では、拡大地域を含めた全域が、ジオパーク構想地域であることが確認できない。具体的には全域マップさえも作成・公開されていない。少なくとも、全域マップや全域案内板の原稿と設置箇所の地図等を作成し、また桜島・錦江湾ジオパークのWebサイトでも情報発信する必要がある。 2)拡大地域全域におけるジオパークのサイトや活動をしっかりと管理運営・推進するために欠かせない、3市が連携した事務局運営体制が不十分である。一体的な事務局として、それぞれの役割分担や定期的会合を開催するなど、具体的な活動実績を示す必要がある。 	△
五島列島	五島列島は、九州の最西端に位置し、福江島をはじめとする5つの大きな島とその周辺の島々からなる。ジオパークの申請では、そのうち、南西側の五島市に属する福江島、奈留島を中心とする島々を申請範囲としている。約1700万年～1500万年前に堆積した大陸由来の砂泥堆積層が基盤をなし、日本海の拡大時やその後には火成活動があった。800万年から600万年前には沖縄トラフの拡大の影響による断層運動で、現在の五島列島の島々に分断されていった。約100万年前から、単成の火山群が複数箇所形成された。そのうち、福江火山群は活火山である。五島列島は、中国大陸に近いと、古代より大陸との交易や遣唐使に関わる歴史があり、渡り鳥の中継地としても重要な位置にある。また、一部の地域は、ユネスコ世界文化遺産の構成資産に登録されている。五島列島はその成立の歴史から、島々の地質や形成過程が一体的であり、生態系や歴史文化も共通している部分が多い。将来的には、五島市以外の区域の拡大も視野に入れている。	新規認定申請のためなし。	<ul style="list-style-type: none"> ジオパークとしての離島環境や景観の素晴らしさと多様な歴史生活文化資源のユニークさと豊かさは評価できる。 福岡や長崎の主要都市からのアクセスが良く、観光での認知度や人気は高い。 島の配列や火山群などを陸上と海上から観察することができる地域である。 協議会の会長をはじめとする構成員の熱意があり、ジオパークへの期待が強い。 事務局の人員と予算的な運営体制は充実しており、スタッフの熱意の強さが感じられる。 民間組織「五島自然塾」がジオパークの推進に協力的である。 学術顧問や環境省などの関係省庁も協力的であり、五島自然塾などへの情報提供や行政との橋渡し役をしている。 観光関係者による関心は高く、ジオサイト訪問を含めたジオツーリズムの試みが実践されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ジオパーク関係者のジオパークの理念や目標の理解と共有が不足している。 ジオサイト候補地がほぼ地質的な場所に偏っているため、ジオパークの観点からのジオサイト候補地の選定、再整理が必要である。 ジオパークを地質の公園として捉えたジオサイトの設定され、サイトの説明や看板などの内容が吟味されていない。 ジオパークとしての可視性(パンフレット、看板や説明板)の整備が種類、量とも不十分である。 ジオガイド養成のための講座や質保証のための取組(認定制度)が未整備である。 ジオパーク拠点施設のコンテンツの整備が不十分(来年度実施予定) ジオパークの学校教育への働きかけがあまり行われていない。教員や学校生徒にも周知されていない。 全般的に、現段階ではジオパーク設置に向けた準備段階という評価である。 	×